研究室紹介

香川県農業試験場 生産環境部門 病害虫担当

香川県農業試験場本場は，2011年に県のほぼ中央に位置する綾川町に移転整備されました。組織は企画・営農部門，作物・特作部門，野菜・花き部門，生産環境部門で編成されています。生産環境部門は，病害虫4名，土壌肥料2名，残留分析2名，生物工学2名の4担当で構成され，これを活かした横断的な取り組みを行っています。また，普及・研究・行政連絡会議（通称：トライアングル）において，研究課題の選定・評価を行っています。近年の主要成果は，イチゴ栽培においてハダニ天敵の定着促進を目的とした「バンカーシート」，抵抗性に左右されないハダニ防除技術「苗の高濃度二酸化炭素処理」，「電解次亜塩素酸水」を用いた育苗管理による炭疽病防除，「UV-B照射」によるうどんこ病防除等があります。ここでは，現在取り組んでいる課題の概要を紹介します。

集合写真

ミカンキイロアザミウマ

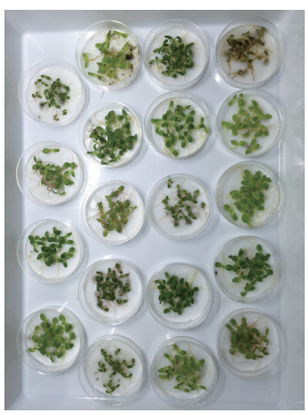
ナミハダニ

1　病害虫×土壌肥料

ブロッコリー根こぶ病，レタスビッグベイン病，タマネギべと病といった土壌伝染性病害が問題となっています。そこで，一筆圃場ごとに土壌理化学性および生物性診断結果をカルテ化するとともに，現在公開されている土壌や気象等に関するデータベースも活用して，効率的かつ経済的な防除技術の開発を目指しています。

2　病害虫×残留分析

県内で広く普及している施設栽培アスパラガスにおいて，酷暑での薬剤散布はかなりの重労働となっており，また，散布ムラが原因と思われる防除効果の低下も顕在化しています。そこで，歩行型スピードスプレーヤなどの散布機を用いた省力的な薬剤散布を検討しています。散布ムラの低減を図りながら，安定した防除効果が得られる省力防除技術の開発を進めています。


レタスべと病レース検定状況

生物検定で確認された根こぶ病

3　病害虫

1）虫害：天敵を用いた防除成功の可否は，天敵の放飼タイミングや放飼量，放飼時の害虫発生密度等が肝要であり，それに合わせた薬剤防除も必要です。そこで，イチゴやトマト等の施設栽培において，天敵（バンカーシート）を利用した体系防除の確立やバンカープランツを用いた天敵の誘引と温存の検討等を行っています。

2）病害：本県ではブロッコリーの作付面積が右肩上がりで推移していますが，黒すす病や花蕾腐敗病といった花蕾に生じる病害が問題となっています。また，全国生産量第2位のニンニクでは鱗片部に生じる白絹病が大きな減収要因となっています。そこで，各病害の生態に基づいた防除時期，抵抗性に左右されない生物防除資材について検討を行っています。また，野菜・花き部門と共同でイチゴうどんこ病やアスパラガス茎枯病に抵抗性を有した品種育成も行っています。

（主任研究員　西村文宏）

〒761-2306　香川県綾歌郡綾川町北1534-1
TEL　087-814-7315

植物防疫